

2008年12月以来の米利下げ

ポイント① FRB保有資産の削減も終了

7月30、31日に開催された米国の金融政策決定の場であるFOMC（米連邦公開市場委員会）では、政策金利であるフェデラルファンド金利の目標値上限が2.5%から2.25%へと引き下げられました。

また、FRB（米連邦準備制度理事会）が保有する米国債などの資産を削減する計画を2カ月前倒して終了することを決定しました。

ポイント② 世界的景気減速懸念への対応

FOMC後の声明文では、世界の状況が米経済の見通しに与える影響やインフレ率が低水準にあることを利下げの理由として挙げています。

米国経済自体には、まだ明確な鈍化の兆候は見えていないようですが、保護主義圧力の高まりなどから世界的に貿易量や設備投資の減退が懸念される中、FRBとしては予防的な意味合いから利下げに踏み切ったようです。

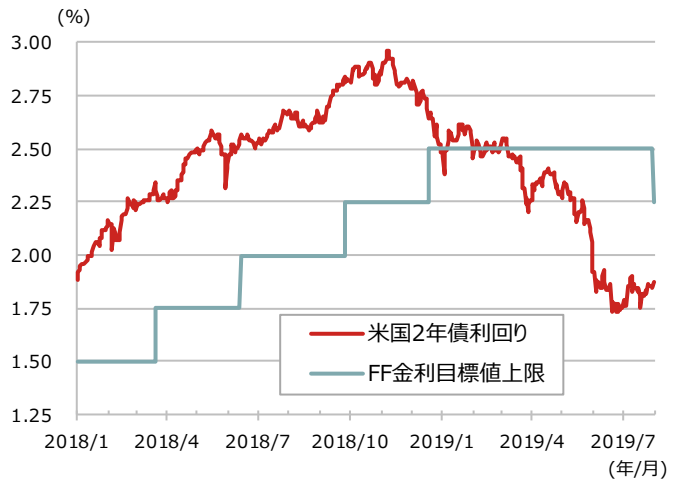
ポイント③ 追加利下げは今後の景気次第

パウエルFRB議長は、記者会見で今後の追加利下げの可能性に含みを持たせながら、今回の利下げが継続的利下げにはつながらないだろうと述べました。利下げにそれほど積極的ではないとの見方から、7月31日の米国株式市場は下落し、為替はやや米ドル高に動きました。

実際に追加利下げが行なわれるかは、今後の景気動向にかかっています。金融市場では、米国や世界の重要経済指標が発表される度に、一喜一憂して追加利下げの織り込みの度合いが振れ、株価、債券利回り、為替レートが上下に振れる可能性があり、注意が必要です。

図1：米国の政策金利と米国2年債利回り

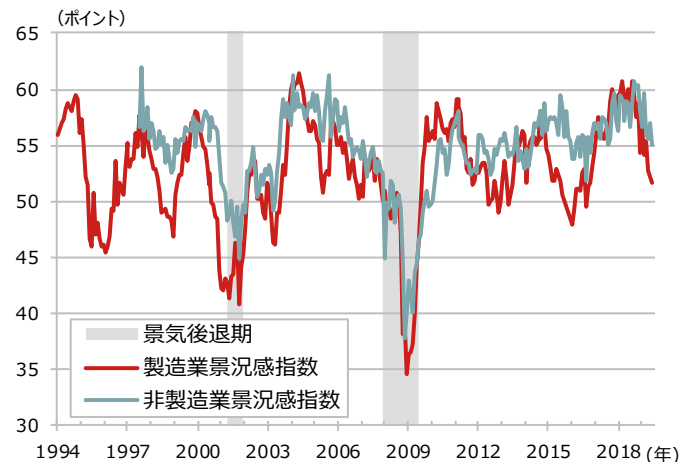
期間：2018年1月1日～2019年7月31日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米ISM(サプライマネジメント協会)景況感指数

期間：1994年1月～2019年6月、月次



・非製造業景況感指数は1997年7月から。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

8月2日 米雇用統計（7月）

8月5日 米ISM非製造業景況感指数（7月）